

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

年末年始も本と一緒に

～ 読書をしながらの年越しもいいものです ～

1. 深みある人生へと導いてくれる「読書」

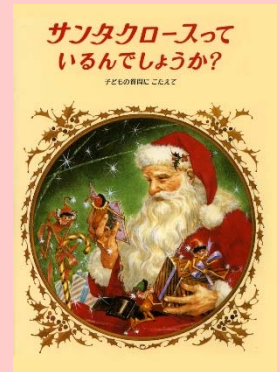
斎藤孝先生が書かれた『読書する人だけがたどり着ける場所』(SB新書)を読むと、読書がいかに自分の人生に影響を与えるかが非常によくわかります。「いますぐ本を読まなくちゃ」、そんな気持ちにさせてくれる本です。皆さんは何かを調べる時に最初のツールとしてインターネットを使いますか? それとも本を読みますか? インターネットで調べることと読書との差は「深さ」にあるそうです。前者が「浅瀬(海の浅い所)で貝殻を拾っている感覚」であるのに対し、後者は「海に深く潜り込んでいく感覚」だと同書で述べられています。ある事象についてすばやく広く知るにはインターネットは非常に便利ですが、じっくり向き合うには読書が最適です。例えば知りたい何かについて本を読み、その本の中で興味を引く何かがあったら次はそれに関連する本を読んでみましょう。次々と本を読み進めていくと興味や知りたいことがどんどん増え、本がない生活が考えられないくらい読書の面白さにはまることでしょう。読書によって偉人の教えに触れたり、歴史を追体験することもできます。これってすごく贅沢なことだと思いませんか? 読書は人生を深くする最も身近な手段です。本という知識の海へさっそく潜り込んでみましょう。



読書する人だけがたどり着ける場所
(斎藤孝著/SBクリエイティブ)

2. 『サンタクロースっているんでしょうか?』

標題は絵本のタイトルですが、12月に縁のある本を紹介しようとしていたところをたまたま本屋さんで見つけました。お恥ずかしながら今回初めて知ったのですが、長く読み継がれている有名な絵本だそうで、ご存知の方も多くいらっしゃると思います。この本は今から100年以上前にアメリカ合衆国のニューヨーク・サン新聞に寄せられたある少女の質問がきっかけとなり出版されました。「サンタクロースって、いるんでしょうか?」—この少女の質問に真摯に向き合い、同新聞の社説に掲載された優しく丁寧な回答が大きな反響を呼び、絵本として取り上げられました。「目に見えるものだけがすべてではない、目に見えないものこそが本当の本当。」—子供だけでなく大人の心にも響く美しい内容です。大人になるとともに忘れかけていた大切な何かに改めて気づかせてくれる絵本だと思います。クリスマスプレゼントに悩んでいる方がいらしたら、この絵本を贈ってみたいかがでしょうか。家族やお友達と大切な何かについて語り合うクリスマスも、また素敵かもしれません。



サンタクロースっているんでしょうか?
(中村妙子訳/東逸子絵/偕成社)

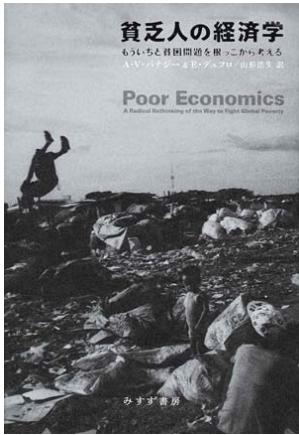


◇東都大学「学生が選んだおすすめ本」展示開催中◇ 場所: 紀伊國屋書店新宿本店 7F 期間: 12/8(日)～20(金)

このたび紀伊國屋書店様のご厚意により、東都大学「学生が選んだおすすめ本」と題して学生推奨本や手作りのPOP(本を紹介するカード)を紀伊國屋書店新宿本店内に展示させていただいております(場所: 7F 学習参考書フロア、期間: 12/8(日)～20(金))。これは9月に実施した『学生選書ツアー』に続く企画で、本学以外にも青山学院大学、法政大学、明治大学など首都圏を中心とする多くの大学が入れ替わりで展示を行っているそうです。誰もが知る「紀伊國屋書店新宿本店」に東都大学の看板や学生たちが作ったPOPが展示されていることは非常に素晴らしいことで、実際に書店へ足を運び展示を目にした時には、思わず目頭が熱くなりました。今回の展示のために学生たちが作ったPOPは、書店様から「今までの展示の中でも最優秀」との評価をいただき、たいへん喜ばしく思っております。お時間がありましたら是非お立ち寄りいただき、力作揃いのPOPをご覧くださいませ(同じフロアには「東京の女子大学学生が選んだおすすめ本」のコーナーも設置されています。こちらにも、思わず本を手にとってみたくなるような魅力的なPOPがたくさん展示されています)。今回の展示に際し、ご提案ならびにご協力くださいました紀伊國屋書店の皆様、POPを作ってくれた学生の皆さん、そしてご多忙中にもかかわらず最後まで細やかなご指導をくださいました図書館運営委員の先生方、本当にありがとうございました。書店での展示が終了した後は図書館内「イチオシコーナー」に本やPOPを飾らせていただく予定です。こちらぜひご覧くださいませ。

★図書館では皆さんからのPOPを随時募集しています。本を読んで「面白い!」「皆に薦めたい!」と思ったらPOPを書いてみませんか? POPを書くことは、自分の思考力を深めることにもつながります。皆さんの素敵なPOPをお待ちしています。





「貧乏人の経済学 もういちど貧困問題を根っこから考える」

A・V・バナジー&E・デュフロ 著/山形浩生訳 みすず書房

ヒューマンケア学部 教授 神山吉輝

貧乏人の経済学

(A・V・バナジー&E・デュフロ著/山形浩生訳/みすず書房刊)

2019年のノーベル経済学賞受賞者による一般向けの著書である。原題は”POOR ECONOMICS A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty”で、2011年に刊行されている。日本語版は2012年の刊行である。「貧困の経済学」ではなく、(挑発的ともとれる)「貧乏人の経済学」であるのは、「人」に焦点が当てられているからだ。本書冒頭の「はじめに」では、以下の様な記述がある。「貧乏な人の経済学(poor economics)は、貧困の経済学(the economics of poverty)と混同されることがあまりに多いのです。貧乏な人はあまり物を持っていないから、その経済的な存在について興味深いことは何も無いと思われがちです。残念ながら、この誤解は世界の貧困に対する戦いをひどくダメなものにしてしまいます。・(中略)・先に進みたいなら、貧乏人をマンガの登場人物に還元する癖を捨てて、本当にその生活を、複雑さと豊かさのすべてにおいて理解するだけの時間暇をかけるところから始めなくては。」(英字部分は著者のウェブページ <http://web.archive.org/web/20190409024633/http://www.pooreconomics.com/about-book/excerpt>より、下線は評者)また、次の様な記述もある。「貧乏人は、他のみんなと比べて合理性に劣るわけでもありません—その正反対。まさに持ち物があまりに少ないからこそ、彼らは選択をきわめて慎重に考えることが多いのです。生きるだけでも、高度なエコノミストにならなくてはやっていけないのです。」(下線は評者)貧困とされている世界の人々がどのような合理的判断を行っているのかは、本書の各章で詳述されている。一見不可解な行動も、その現場の文脈に沿ってみれば理にかなった行動であることが理解できる。そして、貧困削減を進めるために、著者らは、RCT(ランダム化比較試験)を活用する。どんな介入が実際に効果的なのかをRCTによって判断する。(RCTについては、「公衆衛生学」や「疫学」の授業で説明した通りです。)薬学や臨床疫学の手法を途上国支援という分野へ応用したのだ。そのような個別的地道な実証を通じて、貧困削減を一歩一歩進めることができる、と著者らは主張する。そして、最後に、次の様な「冷酷とも取れる発言」(「訳者解説」より)で本書は終わっている。「貧困をまちがいに根絶してくれるようなレバーもありませんが、それが無いことを認めれば、時間がこっちの味方についてくれます。貧困は何千年も人類とともにありました。貧困の終わりまであと五十年か百年待たねばならないのであれば、それはそれで仕方ないことです。少なくとも、何か簡単な解決策があるようならはやめられますし、世界中の善意の人々—政治家たちや官僚、教師やNGOのワーカー、学者や起業家たち—とも手を結ぶようになります。彼らとともに、大も小もいろんなアイデアを探求することで、いずれだれも1日99セント以下で暮らさなくてすむ世界に到達できるのです。」これは、世界の貧困問題に限らず、世の様々な問題についても同様のことが言えるのではないだろうか。本書を読むことで、自分の身近な問題についても様々な示唆を誰もが得られると思う。

409024633/http://www.pooreconomics.com/about-book/excerptより、下線は評者)また、次の様な記述もある。「貧乏人は、他のみんなと比べて合理性に劣るわけでもありません—その正反対。まさに持ち物があまりに少ないからこそ、彼らは選択をきわめて慎重に考えることが多いのです。生きるだけでも、高度なエコノミストにならなくてはやっていけないのです。」(下線は評者)貧困とされている世界の人々がどのような合理的判断を行っているのかは、本書の各章で詳述されている。一見不可解な行動も、その現場の文脈に沿ってみれば理にかなった行動であることが理解できる。そして、貧困削減を進めるために、著者らは、RCT(ランダム化比較試験)を活用する。どんな介入が実際に効果的なのかをRCTによって判断する。(RCTについては、「公衆衛生学」や「疫学」の授業で説明した通りです。)薬学や臨床疫学の手法を途上国支援という分野へ応用したのだ。そのような個別的地道な実証を通じて、貧困削減を一歩一歩進めることができる、と著者らは主張する。そして、最後に、次の様な「冷酷とも取れる発言」(「訳者解説」より)で本書は終わっている。「貧困をまちがいに根絶してくれるようなレバーもありませんが、それが無いことを認めれば、時間がこっちの味方についてくれます。貧困は何千年も人類とともにありました。貧困の終わりまであと五十年か百年待たねばならないのであれば、それはそれで仕方ないことです。少なくとも、何か簡単な解決策があるようならはやめられますし、世界中の善意の人々—政治家たちや官僚、教師やNGOのワーカー、学者や起業家たち—とも手を結ぶようになります。彼らとともに、大も小もいろんなアイデアを探求することで、いずれだれも1日99セント以下で暮らさなくてすむ世界に到達できるのです。」これは、世界の貧困問題に限らず、世の様々な問題についても同様のことが言えるのではないだろうか。本書を読むことで、自分の身近な問題についても様々な示唆を誰もが得られると思う。

日本・ハンガリー外交関係開設150周年記念ブダペスト国立西洋美術館&ハンガリー・ナショナル・ギャラリー所蔵 ブダペスト—ヨーロッパとハンガリーの美術400年

1月も展示販売を開催します



ハンガリー最大の美術館であるブダペスト国立西洋美術館とハンガリー・ナショナル・ギャラリーのコレクション展は日本では実に25年ぶりの開催となります。今日ハンガリーで最も愛されている名画《紫のドレスの婦人》(左)を描いたシニエイ・メルシエ・パールのほかハンガリー近代美術を代表する画家たちの名作が35点も出展され、大変見応えのある展覧会となっております。日本ではあまり目にするのでできない珠玉の作品群を、この機会にぜひご覧ください。

(左)シニエイ・メルシエ・パール《紫のドレスの婦人》1874年 油彩/カンヴァス ブダペスト、ハンガリー・ナショナル・ギャラリー ©Museum of Fine Arts, Budapest-Hungarian National Gallery, 2019

会場：国立新美術館 企画展示室1E(東京・六本木) 会期：2019年12月4日(水) - 2020年3月16日(月) 開館時間：10:00-18:00(毎週金・土曜日は20:00まで) ※入場は閉館の30分前まで 休館日：毎週火曜日、年末年始(2019年12月24日(火) - 2020年1月7日(火)) *ただし、2月11日(火・祝)は開館、2月12日(水)は休館 観覧料(当日券)：一般1,700円/大学生1,100円/高校生700円 ※中学生以下は入場無料。 ※障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は入場無料。 ※2020年1月11日(土)~13日(月・祝)は高校生無料観覧日(学生証の提示が必要) / 展覧会公式サイト：<https://budapest.exhn.jp> お問い合わせ：03-5777-8600(ハロダイヤル)

毎月第1、2火曜日に開催している展示販売(場所:1号館食堂、時間:12:25~13:15)について、本年度は12月10日(火)が最終日となっておりますが、皆さんからのご要望にお応えして1月7日(火)、14日(火)に追加開催することになりました(廣川書店様のご厚意に感謝いたします)。医学、看護、栄養に関する書籍がいずれも10%OFFで購入できます。国家試験問題集の種類も豊富です。皆さん是非ご利用ください。



細葉柊南天

「ホソバヒイラギナンテン」と読みます。名前のとおり葉が細い柊南天で、黄色い小ぶりの花をたくさん咲かせるのが特徴です。花言葉は「優しい暖かさ」だとか。【参考文献】NHK出版HP『みんなの趣味の園芸』ほか